

区 分	薬 剤 名	処 理 法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
大 麦 類 (つづき)	DBN 粒	生育初期 処 理	スズメノテ ッポウ1.5 葉期まで	㊥ g/a 500 ~ 600	壤土~埴土	温暖地西部	1). 砕土・覆土はてい ねいに行って、均一 散布に留意する。 2). 対象 (裸麦) 〔水田裏作〕
い ぐ さ	NK-049・S 粒	土壌処理	ノビエ発生 前 (4月上 ~中旬)	㊥ g/a 400 ~ 500	埴 壤 土	温暖地西部	1). 冬雑草を有効除草 剤で防除した後使用 する。
水稻刈跡	MCP・BAS 液	茎葉処理	水稻刈取後 塊基形成始 期 (9月中 ~下旬)	㊥ ml/a 40 ~ 60	全 土 壤	温暖地東部 及び暖地の 早期栽培	1). 茎葉によく付着す るように散布する。 2). 対象 (ミズガヤツ リ)。

註：1). アンダーライン (実線) は、本年度拡大された部分 (なお、薬剤名のアンダーラインは、本年度はじめて
使用基準の作成されたもの)。

2). アンダーライン (点線) は、その1部が拡大されたもの。

植 調 協 会 だ よ り

◎ 第15回評議員会・常任評議員会開催す

昭和54年9月11日(火)、国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2-3)において、評議員109名中79名(委任状を含む)出席のもとに開催した。開会に際し、当協会吉沢専務理事が挨拶し、今回は特に重要な事項がないので、評議員会と常任評議員会を合同で開催したき旨を述べ、全員の賛同を得た。ついで、議長の選任に入り、望月雅郎(住友化学工業)が議長に選任され、次の件につき審議の上、万場一致で可決された。

昭和54年度水稻・畑作関係除草剤試験展示圃成績地域検討会日程表

地 域	期 日	会 議 日 程	開 催 場 所
関東・東山・東海地域	10月30日(火)	10:00 ~ 17:00 水 稻 関 係 (分科会) 畑 作 関 係 (分科会)	「クミアイ化学工業ビル」 5 F 大会議室 台東区池之端1の4の26 TEL 03(823)1701
	10月31日(水)	9:30 ~ 17:00 水 稻 関 係 (分科会) 展 示 圃 関 係 (分科会)	

(1) 昭和55年度評議員会費については、前年通りの算定基準を用いることとして審議された結果、原案通り可決された。

(2) 続いて、次の事項につき報告された。

- ・ 昭和53年度事業報告および決算。
- ・ 昭和54年度事業計画および予算。
- ・ 植調会館・資料館の建設。
- ・ ブラジル植調の設立および予算。
- ・ 諸規程の一部改正。

◎ 会議開催日程のお知らせ

昭和54年度水稻・畑作関係除草剤第二次適用性試験および展示圃試験の成績検討会を、下記日程表により地域別に開催することになった。

地域	期 日	会 議 日 程	開 催 場 所
東 北 ・ 北 陸 地 域	11月 5日(月)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 畑 作 関 係(分科会)	1. 水稲関係・展示関係 「農業共済会館」 仙台市上杉1の8の10 TEL 0222(25)6701 2. 畑作関係 「建設会館」(共済会館に隣接) 仙台市上杉1の4の20 TEL 0222(25)8851 ~ 8855
	11月 6日(火)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 展 示 圃 関 係(分科会)	
北 海 道 地 域	11月 8日(木)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 畑 作 関 係(分科会)	「自 治 会 館」4F 札幌市中央区北4条西6丁目 TEL 011(241)9111
	11月 9日(金)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係	
近 畿 ・ 中 国 ・ 四 国 地 域	11月12日(月)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係	「石 原 ビ ル」 大阪市西区江戸堀上通り1の11の2 TEL 06(444)1451
	11月13日(火)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 展 示 圃 関 係(分科会)	
九 州 地 域	11月15日(木)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 畑 作 関 係(分科会)	「三 鷹 ホ ー ル」 福岡市博多区網場2の2 第1勸業ビル7階 TEL 092(291)8366
	11月16日(金)	9:30 → 17:00 水 稲 関 係(分科会) 展 示 圃 関 係(分科会)	

編 集 後 記

二百十日も無事に過ぎ、暑さも峠を越したせいか、本年流行の省エネも姿を消しはじめた。真夏の電力危機も何とか乗り切ったが、これから冬にかけて多量に消費される灯油の備蓄量の減少は、国民の生活に不安を投げかけざるを得ない。施設栽培による野菜類も灯油の値上がりの影響を受け、かなりの割高となるに違いない。しかし、灯油の入手が不可能になった場合、施設栽培農家は施設栽培を断念せざるを得なくなるであろう。したがって、これからは秋冬作野菜の存在価値が高まるが、消費者は自然条件下で栽培された野菜に頼らざるを得なく

なるであろう。何か、原始時代の生活に後ずさりする感もあるが、これが自然なのだ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区虎ノ門一丁目17番1号
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和54年9月発行

植調第13巻第6号

¥250(送料140)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区愛宕1-2-2 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番